

オープンウォータースイムレース競技ルールと諸注意

本大会の競技規則は日本を泳ごう委員会の規定する競技規則を適用いたします。安全対策・公正な競技運営のための、下記の事項及び諸注意を熟読し、競技にご参加いただけますようお願いいたします。

1. 全般

- ◆ 競技者は競技規則に違反した場合、その場で失格となります。
- ◆ 競技者はよきスポーツマンシップをもって行動すること、不当な行為・虚偽の申告、その他のスポーツマンらしくならぬ行動があった場合には失格となります。そのスポーツマンシップ精神とは“フェアプレー”と“エコプレー”です。当然競技の公正を期すためにフェアプレー精神を持つことが重要ですが、あわせて自然環境の中で行われるスイムレースであることを認識し、日常生活においても常に自然環境に充分配慮して行動する「エコプレー」が求められます。
- ◆ 競技者は審判・競技役員の指示に従ってください。
- ◆ 競技者は“自己責任”と“自己保全”の考えに基づいて、出場する種目距離を連続して泳げる能力を有する者であること。そのための定期的なトレーニングを行っている者で、自分の健康・体調に責任を持ち管理・行動をしてください。競技開始前はもちろんのこと、例え競技中であっても体調に変調をきたしたときはただちに棄権することを考慮してください。
- ◆ 競技者はアルコール類を飲んで出場したり、法律で禁止されている薬物や刺激物を競技のために用いてはいけません。
- ◆ 競技役員・および安全医療担当者は大会運営に障害および生命に危険のある競技者を棄権・退場・失格させる権限を保有します。その場合、本人又はそのチームは自動的に失格となり、競技を続行することはできません。
- ◆ 競技者はレース中(5km以下の競技)、競技委員長の承諾なしに個人的な伴泳・飲食物の供与およびその支援など、一切の助力を受けることはできません。
- ◆ 本大会では競技の公正を期すため特別の事情を除いて、ウエットスーツの着用を禁じます。但し海水温が22度以下になった場合又は競技委員長が必要と判断した場合はウエットスーツの着用を許可します。(但し、安全上に事由から入賞対象とならないことを条件にウエットスーツ着用して出場することは可能です)
- ◆ レース中に棄権を申し出る場合は右手を挙げ、海上監視スタッフ(ライフガード)にその意思を伝えてください。
- ◆ 競技者の年齢決定はレース開催年の12月31日の満年齢といたします。
- ◆ 原則として競技者は個人種目に重複して出場することはできません。但し、個人種目と団体種目にエントリーすることは可能です。但しリレー種目で複数のチームから出場することはできません。(400m競技がある大会ではその他1種目を重複して出場することができます)
- ◆ 競技はすべてタイムレースといたします。
- ◆ 泳法は自由です。競技途中で泳ぎのスタイルを変えてもかまいません。
- ◆ 大会は日本記録や世界記録の公認はいたしません。但し入賞者の記録は大会記録として保存され、完泳者には記録証を発行いたします。
- ◆ 記録証の引渡しは原則として全競技終了後、1時間以内に選手登録デスクにて行います。但し、計時の都合上、その時間内に引渡しができなかった場合は後日発送となります。
- ◆ すべてのエントリー受付は選手登録デスクにておこないます。競技前開始前に棄権を決めた方は必ず選手登録デスクでその旨を申告してください。
- ◆ リレーメンバーの変更は指定時間内におこなってください。メンバーの変更は登録済の年齢区分内であれば、2名まで変更をすることができます。但し、チームの合計年齢が登録済の年齢区分を変更して出場することはできません。

2. 選手登録について

- ◆ 競技者は大会当日「選手登録デスク」に指定された時間内に出向き、あらかじめ登録カードと本

人宛に郵送された「エントリー確認書」を提示の上、選手登録をおこなってください。

- ◆ 選手登録は必ず本人がおこなってください。(リレー登録も全員の確認が必要です)
- ◆ 選手登録の際、競技者識別のための番号記入(ナンバリング)を腕と足におこないます。
- ◆ 種目ごとの登録指定時間は「競技スケジュールのご案内」に記載されています。

3. 計測方法について

競技の計測はすべてコンピュータによる自動計測システムを採用します。これはあらかじめゴール地点に設置されたセンサーを感知して計測するものです。その際に番号確認用としてゼッケン番号の記載(腕と足の両方)と同時にゴール直後に渡される着順確定カード(ゴールの順番を記したカード)が手渡されます。そのカードを持ってそのまま本部テント内の計測デスクまでゆき、順位の確定をしていただきます。また途中棄権の方も必ず本部テントにて棄権したことを通告してください。

4. スタートについて

- ◆ スタートは「水中スタート方式」を採用します。
- ◆ 男女種目別に出場者100名まではいっせいスタートといたします。100名を超えた場合にはそれぞれ「分割スタート方式」により行われます。いずれも審判長の指示に従っていただきます。
- ◆ 審判長の合図で競技者はスタートラインに静止します。スタートラインは原則として年齢の若い順に並びます。但し、整列方法を泳力によって変更する場合がございますので必ず審判長の指示に従ってください。
- ◆ (NO False Start)即ち、フライングは1回で失格となります。レースのやり直しはいたしませんので注意してください。

5. ゴールについて

- ◆ ゴール地点は水際から10~20mほど砂地を上がった場所に設置されます。
- ◆ ゴール地点に設置された感知センサーの通過と計測テントでの本人確認によってフィニッシュとなります。

6. 異議の申し立て

- ◆ レースの異議申し立てはレース終了後30分以内に本部デスクにて受け付けます。異議申し立てはデスクにある所定用紙を用いて本部デスクに提出してください。
- ◆ レースのスタート前の異議についてはそのレーススタート15分前まで受け付けます。
- ◆ 受理した異議については審判長の判断により決定がなされます。

7. 大会の中止について

主催者が予期し得ない事態・天災地変・台風・地震・津波・交通機関のストライキ・異常気象などによる海水温の低下などにより大会の開催が無理と判断された場合、主催者は大会の中止を宣言いたします。その場合に伴うエントリー料の払い戻しはおこないません。なお中止基準についてはアンスコム競技規則にのっとり別途競技要項に記載いたします。

8. 安全について

- ◆ 日本を泳ごう委員会の作成した安全対策マニュアルに記載された「海上監視プラン」にもとづき、ライフガードが監視・誘導・レスキューをおこないます。
- ◆ 目安として800mコースでは最低5名のライフガード、3200mのコースでは最低6~10名のライフガードが監視に当たり、かつジェットスキーにて選手の誘導・救助にあたります。コース上にあつて選手はライフガードの指示に従っていただきます。

9. 救護所の設置

- ◆ 大会開催中はファーストエイドステーションを設置します。ここでの措置はあくまで応急措置のみで、それ以上の行為が必要と判断された場合には救急医療機関への搬送をおこないます。

10. その他

各会場には更衣室・トイレ・ロッカー・シャワーなどが用意されていますが、数に制限がありますことをあらかじめご了承ください。個人的な荷物および貴重品などは各自の責任において管理をお願いいたします。大会事務局はそれらの一切の事故や盗難にともなう賠償には一切応じられません。